

## 住民説明会質疑概要

1. 日 時：平成27年4月3日（金） 18：30～19：45

2. 場 所：アトムワールド

### 3. 質疑概要

住民) 今回の改修作業で設置した排気フィルターの精度はどの程度で、交換頻度はどのくらいであるか。

⇒J-PARC) 排気フィルターは、放射性物質を扱う施設では標準的に使用されている、プレフィルターと HEPA フィルターという二つのフィルターを使用している。フィルターの交換頻度は半年に一回程度であり、常時、圧力を監視し、通常の交換基準よりも前に交換を行っている。

住民) 標的容器や実験ホールは負圧管理しなくてもよいのか。

⇒J-PARC) 標的容器は、ヘリウムガス循環装置を新設し、モニタ装置で監視できるようにした。実験施設全体としては、今回の改修により、負圧管理をできる施設となった。

住民) 第三者による安全監査を行ったとの説明だったが、第三者の定義を教えてください。

⇒J-PARC) J-PARC は、日本原子力研究開発機構と高エネルギー加速器研究機構が運営を行っている機関であり、これらの機関に関係のない方々を、第三者と呼んでいる。今回安全監査をお願いしたのは大学の教員であり、安全工学と放射線の専門家2名である。

住民) 今日の説明会に住民参加者が少ないことについてどのようにとらえているか。

⇒J-PARC) 今日から3日間開催していく予定であり、金曜日であること、天候がすぐれないことを考えると、残る2日間で多くの方がいらしてくださるのではないかと考えている。

住民) 安全対策を見直したと言っているながら転落事故等のいろいろな事象が起こってしまっており、対策を立てているのか疑問である。今後同様の事故を起こしてしまった場合、研究を辞める覚悟はあるのか。

⇒J-PARC) 安全対策後にいろいろな事象を起こしてしまっていることは痛恨の極みである。それぞれの事象の原因を冷静に分析し、火災については、県の原子力安全対策委員会で再発防止策について説明し、理解を得てきたところである。こういったプロセスを踏むことで、我々の安全対策が高まってきているという実感も、一

方ではある。また、起こっている事象の性質とその対処の仕方は、確実に改善していると感じている。J-PARC は、先進的な加速器を用いて社会貢献していくことを目的として建設された施設であり、研究を行っていくことは我々の使命でもある。研究というものは、国民の皆様のご理解の上で成り立つということを痛感しており、安全管理体制を整えて、皆様にご理解していただくという過程を経て、研究成果を通して社会に貢献していきたい。

住民) 放射能や核というものは、失敗が許されないものではないか。事故直後の住民説明会では、外に出た放射性物質の半減期は短く、量も少ないので大丈夫です、という説明を行っていたが、そういう気持ちで研究されていたのでは困る。次に何か起きた時には研究を辞める、という選択肢を持っているのか。

⇒J-PARC) ハドロン事故において多くの方に不安・ご迷惑をおかけしたことを改めて深くお詫びする。健康に心配を持たれた方については、ホールボディカウンターで測定し、第三者による測定も行っていただくなど、残っている不安を取り除く対策を継続してきた。また、このような施設では多重防護が大切と考えるが、そういった対策も実施することができた。こういった点から、過去に起こしたのと類似の事故は二度と起こさないとはいえる。これまでの経験に基づいて、今後も運営改善を図っていききたい。更に、研究成果をみなさんと共有することで社会に貢献していくという、本来の施設の使命を果たしていききたいと考えている。

住民) どこがどう変わったのか、比較がないため説明が分かりづらかった。

⇒J-PARC) 説明が分かりにくかった点は申し訳ない。施設の改修については、密閉、フィルタ、気密を全面的に改修したということであり、残る2日で説明を改善していきたい。

住民) 多重防護について、技術者である以上、技術ですべて封じ込めるようにやっているのだろうが、地元住民としては、それ以外のソフト面での対応が不安である。放射性物質が漏れることを前提とし、通報漏れが起こらないような、村役場や県へのホットラインはあるのか。

⇒J-PARC) 技術の過信は、我々として一番危険な考え方だと認識している。このため、何かが起こった時にどうするかということを想定して通報連絡の仕組みを作り上げてきた。日々変わる現象に耳を傾け、真摯に対応していきたいと考えている。

住民) 当事者以外のところに通報するシステムは検討しないのか。

⇒J-PARC) モニタリングポストを設置しており、情報公開できるようにしてある。当事者以外のところに伝えるシステムも整えてきたところであり、火災の時にも迅速

に対応ができた。ハードウェアを全て繋ぐことも考えられるが、重要なことが起こっているのか軽微なことなのか判断がつかなくなってしまう、返って危険である。すぐに伝えるシステムは構築できてきていると考えており、更に改善していきたい。

住民) 事故があった時にも第三者に判断させることを要望する。

⇒J-PARC) 一つの意見として受け止めたい。

住民) J-PARC の中で、今後多重防護を実施しなければならない施設は他にもあるのか。

⇒J-PARC) J-PARC の他の施設については、すでに多重防護ができています。

住民) 第三者委員会が評価しているという話だったが、環境 ISO や安全マネジメントシステム等の民間システムを取り入れているのか、そういう必要性はないのか。

⇒J-PARC) 有識者会議、安全評価委員会において、たくさんの経験に基づく目で安全システムをチェックし、PDCA サイクルで改善する体制を構築してきた。これらは環境 ISO でも取り入れられているものであり、民間システムは取り入れられていると考えています。

住民) 第三者委員会に留まらず、外部の声をできるだけ取り入れていただくことを希望する。

⇒J-PARC) そのようにしていきたい。

以 上